

# 「戦争はいやや西区平和展」に出演

9月9日

□ 9月9日（日）は本並先生指揮、森さんのピアノで、「ミロホール」にてリハーサル（体操は奥村さん）の後、「こども文化センター」で開かれた「第30回戦争はいやや西区平和展」で、100余名の熱心な聴衆を前に演奏し好評を得ました。参加は全25名、元村さんは客席からの応援でした。



□ 演奏曲は「わたしの好きなこの街」、「ゆらゆら春」、「おらぁこごがいい」、「歓びのナーダム」、「天の火」、「なぜ?」、「ねがい」と最後に「フィンランディア」を歌いました。

□ 吉田さんの熱意と誠意のこもった司会は会場から共感の声がかかるほど、平和を訴えるのと合わせて「昴への入団」も勧誘し、演奏後は会場出口で「入団のお誘いピラ」を配布しました。

□ 時間のある人は打ち上げを最寄りの中華料理店で行いました。写真は「乾杯!」の図。何人か映っていないのはカメラアングルのせい、失礼しました。





「支援の歌」  
「私」の好きなこの街支援合唱団  
うたごえ新聞に掲載されました

2012年9月17日

# 支援の歌

## 被災地へ復興

【大阪・立川孝信】昨年秋に続いて、8月、男声合唱団53人と女性含め53人の「私の好きなこの街支援合唱団」（平均年齢70歳）で大阪から16時間をかけて陸前高田に向かいました。18日、到着してすぐ「奇跡の一本松」など街並みを見学しました。復興の兆しが全くないのですが、一筋



▲阪神大震災の時の復興の火がともる、気仙の木工・左官伝承館で関西から行った53人で演奏

の光はひまわりの花があらここに咲き誇っているようにでした。その後は陸前高田の箱根山にある気仙木工・左官伝承館へ向かい献歌しました。ここは昔から優秀な木工や左官を輩出し、その偉業を讃えた伝承館で、阪神大震災の時の復興の火が「希望の灯」として燃え続けています。昂の副指揮者榎実知生・村嶋由紀子夫妻はこの間9回も出向き、震災遺児の子ともたちへ歌の指導や仮設住宅の方々との交流を深め、この伝承館でもソロコンサートを行い、「気仙木工左官伝承館の歌」を創作しました。

19日、支援コンサートの開幕です。観客約200人を前に、まず昂が「林道人去」など力強い歌を5曲、続いて混声で「海に生きたあなたよ」他2曲、仮設踊りの会が私たちの歌で「島



▲ミュージカル「雪の女王」フィナーレ

### 関西から53人被災地の子どもたちとミュージカル

の愛と団結力で元の地球を取り戻すという冒険ファンタジーです。大人は関西の女声アンサンブル「アモーレ」、子ども役は両親を津波で亡くした熊谷かのんちゃん、新沼あかりちゃん、新沼みのりちゃん、3人の遺児たちといこの松田ゆきなちゃんの4人でグループ「AKMY」を結成し、



▲陸前と関西の子のステージで

### 随想 うたごえ時間

りわけうたごえ新聞の持つ大切な位置をこれまで以上に痛切に感じるようになっていく。うたごえ運動は、創造

東日本大震災と原発事故をもちと大きく広げることとは、日々の取り組みの中で団体の運営に関わる人たちが音楽的指導者が常にかかっているべきこ

演出で今回のために書き下ろした作品で、内容は環境破壊や原発汚染を引き起こした人間に怒った雪の女王は人間の子どもをさらって氷に閉じ込めるが、人間





▲大船渡の老人福祉施設で

檀夫妻の指導で台詞も歌も立派にやりこなし、感動の涙を誘いました。  
故高平つぐゆき氏の名曲が数多く挿入され、本格的なコーラスミュージカルにたくさんのアンケートが寄せられ、「たくさんの宝物を失ったがこれからも頑張る生きていこうと思う」

「最高に元氣と希望をいただきました」など生きる勇氣につながったと言葉が多くあり、読売、毎日、地元紙などの新聞も「被災乗り越え音楽劇」「被災にめげず舞台」などの見出しで、子どもたちの熱演に会場は大粒の涙と笑いに包まれたと報道しました。

「おらあここがいい」の歌で会場全体は総踊りとなり、プレゼントを配りながら交流会、またまた子どもたちが澄んだ歌声を披露してくれました。

「本当に、

また来たよ！」

20日は朝から大船渡の富美岡荘老人ホームを訪問し、コンサートです。ちょうど誕生日会の日で90歳を



「おらあここがいい」歌と総踊り

カッパ淵ふるさと村をたずね、しばし宮沢賢治のイーハトーブに触れて癒されました。ハードスケジュールでしたが、身も心も軽く、大きな達成感を味わえた音楽の旅でした。

超しておられるみなさんと「ハッピーバースデー」「北国の春」など元気に歌い交わし盛り上がりしました。施設の方から「また来るね」と言ってもほとんどの人が来ないけど、本当に来てくれてとても嬉しい」の言葉をいただきました。

帰路は遠野観光。ペタペタの遠野弁のガイドさんが胸に刻みました。

【注意/訂正とお願い】  
前号、「うたごえ時間」の原稿に2カ所の脱字、誤植がありました。  
「人をさらって食べた」  
「まづろぬ鬼」は「まづろぬ鬼」のルビの部分が抜けていました。こ

れはパソコンの機種の違いによるトラブルでした。  
今後、このトラブルを回避するために、原稿は本文に貼り付けて送って下さい(別添付しない)。  
また、写真は一点ずつ別添付で。写メール写真は大きくは使えません。

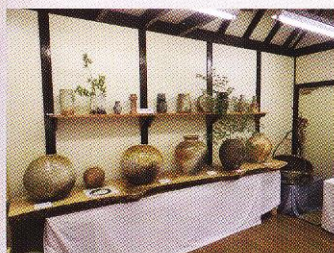
## 高田和弘さんの「工房&ギャラリー“和”」が「伊賀まちかど博物館」に選ばれました。

認定式が9月1日(土)にありました

12 名張エリア

いがりゅうぐち「こうぼう あんど ぎやらりー“わ”」

伊賀竜口「工房&ギャラリー“和”」



職人 陶器 工芸

- ①高田 和弘(たかだ かずひろ)
- ②〒518-0761 名張市竜口782
- ③0595-64-3578・090-5035-6808
- ④0595-64-3578
- ⑤原則10:00~16:00(予約時確認)・休館不定期
- ⑥要予約 ⑦無料 ⑧無
- ⑨・名張駅東口より「ホットバス錦」大和竜口行き約30分「下竜口」下車徒歩約300m戻った左上
- ・近鉄赤目口駅より三交バス赤目滝行き終点より約2.5\*
- ・車:赤目滝橋より西へ約2\*
- ⑩miwagama@gmail.com

名張エリア

赤目四十八滝口から西へ約2.5\*の伊賀竜口、春は緑と数百本の山桜、初夏にはホタルが舞い、秋は紅葉に抱かれるなごみの里山に「伊賀龍口窯」(共同窯)「み和窯」(夫婦窯)二つの穴窯と「工房&ギャラリー和」を常設、1989年名張市の故中村昇仙氏に夫婦で師事、伊賀焼の伝統に学びながら釉薬を使用せず、赤松で焚く穴窯の土と炎が創り出す自然焼成にこだわる夫婦の作品が展示されている。



伊賀まちかど博物館って？  
まちかど博物館はあたらしいかたちの博物館です。いままでの「博物館」のイメージにとらわれることなく、コレクションや伝統の技、手仕事などを、仕事場の一角や個人のお宅などで、館長さんの語りとともに見るができます。伊賀まちかど博物館「は全部で118館。貴重なコレクションのほか、伊賀焼などの手仕事、この地域ならではの歴史や技術を見ることが出来る博物館がずらり。お好みの博物館を巡り歩いてみてはいかがですか。(HPから)」

伊賀まちかど博物館

GUIDE BOOK

ガイドブック

ガイドブックに掲載されました。



## 東北本線で福島縦断:⑤白河駅



白河の関跡へ行くバスは少なく、観光案内所で調べてもらったら、今日中に大阪に帰るのは無理と云う結論。都会より割高になっていますので、お勧めできませんが、タクシーで回れば約8000 円位でしょうか、とのこと。

「白河を新幹線でちしかば 5 時間で着く大阪の駅」

注:ジパング倶楽部割引では「のぞみ」には乗れません。



駅の北側にある小峰城は3.11の地震により石垣が崩壊し現在復旧作業中のため、立ち入り禁止

このシリーズはこの⑤で終わりです。常磐線の旅は何時から?!!

# 西島さんの切り撮ってみる



「白河の関」

「福島の旅をおさむる関さびし」